

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

東京グリーン

CHARTERED 1973

<VOL. 525 2016.12 >

BULLETIN

2016年7月～2017年6月



国際会長
アジア会長
東日本区理事
関東東部部長
クラブ会長

Joan Wilson「私たちの未来は、今日から始まる」(カナダ)
Tung Ming Hsiao「ワイズ運動を尊重しよう」(台湾)
利根川恵子「明日に向かって、今日動こう」(川越)
片山 啓「組み合わせられ、結び合わされて、造り上げられてゆく」(茨城)
浅見隆夫「親睦なくして奉仕はない」(グリーン)

会長 浅見 隆夫
副会長 西澤 紘一
書記 目黒 卓
会計 平林 正子
監事 柿沼 敬喜
担当主事 花井 雅男

12月 クリスマス

「天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」 (ルカによる福音書 2:10, 11)
<父なる神さまが私たち一人一人を滅びから救うために
イエスさまを送ってくださった。感謝！>

2016年12月 クリスマス例会

～EMC-MC 強調月間～

日時:2016年12月21日(水) 18:30～21:00
場所:ライヴ・カスター/文京区湯島 3-36-10
ソーシャル広小路ビル8階 TEL03-3836-1841
受付:佐野君・布上(信)君/会計:平林君
司会:浅見(ク)君

第1部 礼拝 浅見会長
讃美歌「もろびとこぞりて」 全員
聖書 クリスマスメッセージ 古平君
《お言葉通り》
讃美歌「きよこのよる」 全員
献金 (被災地支援金としてYMCAに寄贈)

第2部 祝会 司会:浅見(ク)君
開会挨拶 (ゲスト・ビジター紹介) 浅見会長
食前の感謝 西澤君
乾杯 西澤君
出演者紹介 高谷君

【西村協ライブ】
ジャズヴォーカル・西村協の世界を堪能しましょう

Happy Birthday<12月メム1名 ネット1名>
報告・連絡・アピール
閉会挨拶 柿沼君



今月はEMC活動のうちM(Member-Ship-クラブ拡張)、C(Conservation-維持啓発)についての強調月間です。Mに関してはボランティアスタイルの多様化や社会風土としてまだ日本では継続的な献金行為が根付いていない中で、仲間になって貰いたい候補者探しに苦労されているのが現状かと思われます。その為には、会員個人とクラブが相当な覚悟を持って一体となって組織的に活動していかねばと考えています。具体的には、あらゆる機会に「ワイズ理解」のPRをするとともに、仲間候補対象者(個人あるいはグループ)を絞り込みとその勧誘対策をとることが必要です。Cに関しては、新入会員は勿論のこと、会員個人々人に対しても、クラブキャビネットが分担する等して常にきめ細かいフォローをしていくことが肝要だと思います。具体的には、例会、クラブCS事業やYMCAおよび部、区、国際等の大会への参加を促す策を計ることです。ただし、何といたってもMC活動は例会の充実が第一であることを心していただきたい。
なお、ワイズ活動目的の根幹であるYMCAが現在取り組んでいる「YMCAブランドの再生」および「東京YMCA中期計画」の成果を大いに期待しています。

関東東部会員増強事業主査 柿沼敬喜

【例会出席率】 在籍:17名(含広義会員1名) メーキャップ 2名 出席率 12/16 75%
出席:11月例会 (グリーンメン 10名、ネット1、ビジター2名、ゲスト2名)計15名
【ニコニコ】 11月例会 10,000円 累計 60,000円

＜2016年11月 第一例会報告＞

日時:2016年11月16日(水)18:30~20:30

場所:千代田区和泉橋区民館 2階

出席:浅見(隆)・稲垣・柿沼・古平・佐野・高谷・西澤・布上・花井・平林・メネット布上(信)

ゲストスピーカー浅羽俊一郎(東京山手)

ゲスト壇上氏(立教大Y)・大崎氏(一ツ橋大Y)

ビジター青木一芳(千葉)



青木一芳ユース事業主査のユース事業理解を
図るために提案された「ユース例会」を開催、浅羽俊一郎直前ユース事業主任・あずさ部長をお迎えし「ユースリーダーの皆さんとワイズの皆さんに期待する」と題して講演

をいただいた。

学生YMCAから壇上氏・大崎氏、また青木一芳ユース事業主査にご参加いただきましたが、久しぶりに若人を迎えて例会が若返ったように感じられました。

ユース事業はワイズ発足当初からの中心的プログラムであり、YEEP・STEP事業、ユースコンボケーション事業、オープンフォーラム事業などがあり特に東日本区ではユース・ボランティア・リーダーズ・フォーラム(YVLF)に力を入れていると歴史を語られた。今期のYVLFには32名のリーダー、カウンセラー(豊富なリーダー経験のあるOG・OB)5名、ワイズからは26名が参加し、実りある時を持つことが出来ました。



「今リーダーに求められるもの」と題して青山鉄兵(文教大)氏に基調講演をしていただき「関わること・遊ぶこと・悩むこと」について話し合った。ワイズも野外炊飯でカレーを作りユースと交流を持つことが出来たそうです。

最後に現学Yの壇上氏・大崎氏に各大学での活動を報告していただきました。(浅見(隆)記)

Happy Birthday

12月 浅見クミ子(メン) 西澤与子(メネット)

クラブの円滑な運営のため、年会費をお納め下さい
(2016-17年度 会計:平林正子)

みずほ銀行・戸越支店(普通 2208674)

(口座名)東京グリーンワイズメンズクラブ

＜2016年11月第二例会報告＞

日時2016年11月09日(水)18:30~20:00

場所:千代田区和泉橋区民館 4階

出席:浅見(隆)・浅見(ク)・柿沼・西澤・布上・花井
平林・目黒

- 1. 配布資料 12月Xmas会 プログラム<案>目黒メン
- 2. 報告・連絡事項

①11月卓話 西澤メン
*浅羽俊一郎氏 演題「ユースリーダーの皆さんとワイズの皆さんに期待する」

*青木ユース事業主査ご参加
*学Yリーダー2名出席(一橋大・立教大)

②関東東部部会報告 浅見会長

③グランチャ東雲ふるさとチャリティ秋祭り 布上メン

④昌平小学校課外授業報告 柿沼メン

⑤ソシアスフォーラムの件 浅見会長

11月26日(土) 山手コミュニティーセンター

出席 浅見/柿沼

⑥メネットの集い 11月26日 東陽町
参加予定者 青木メン 浅見Kメン 布上メネット

⑦第2回EMC委員会
東京YMCA東陽町センター
2016年11月19日(土)10:00~
参加者 浅見・柿沼・佐野

⑧第2回関東東部評議会
東京YMCA東陽町センター
2016年11月19日(土)13:00~
参加者 浅見会長 目黒書記 平林会計
西澤副会長 柿沼主査

⑨友人・知人同伴キャンペーン
2016年12月~2017年3月 柿沼メン
~例会でパンフレット配布を~
この期間最低4名のゲストを!

⑩クリスマス例会の件 詳細配布 目黒メン
パンフ作成(布上)

⑪第74回神田川船の会 評価会 稲垣メン
(浅見 記)



青木勝己メンを偲んで

平成28年11月18日に東京グリーンクラブのチャーターメンバーとして永くご活躍され、親分肌で皆に親しまれておりました青木勝己氏が天に召されました。

享年69歳。

勝己氏は青山学院中学・高等学校、同、大学へ。在学中はサッカー部在籍。

卒業後、父の会社、丸福産業(株)を引き継ぎ大いに発展させ、傍らヴォランティア活動として東京グリーンワイズメンズクラブを立ち上げ、活躍され、さらに野球、テニスにも堪能で、橋場リバーサイドテニスクラブの会長などもされておりました。2015年病を得て治療をされておりましたが、あと少して、24日のお誕生日の直前18日に召天されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(布上 記)



2016年11月19日(土)第2回関東東部評議会が東陽町センター視聴覚室にて開催された。

同日、評議会に先立ち、関東東部 EMC 委員会があり、片山部長よりその報告も含め、20周年記念部会の報告、ほか諸々の報告があった。各事業主査より前期の活動報告。各クラブ会長より活動報告があった。

次期役員選出などの事項が協議議案として提出され協議した。議長に片山部長を選出し議案審議が行われた。第1号議案「書記交代の件」は、稲本書記から土谷明男さんに交代する件。第2号議案「次々期関東東部部長選任の件」、埼玉クラブ衣笠輝夫メン、ともに承認された。第3号議案「関東東部メーリングリスト運用の件」は、議案提出通りに承認された。YMCAの歌で絞めて閉会となった。グリーンクラブ出席：EMC委員会(浅見・柿沼・佐野)

評議会：浅見・西澤・目黒・柿沼・平林

「定年時代」：委託CS事業(船の会)参加

春季に引き続き今回も朝日新聞購読者を対象に1都4県(東京、埼玉、千葉、横浜・川崎、茨城)に月1回発刊されている新聞：「定年時代(発行元：新聞編集センター)」より委託CS事業として「神田川船の会」と同じコースを周遊する船の会が11月4日から15日の間8回開催されました。ただし、開催日は前回の春季は6回でしたが、今回は応募者が多数のため急遽2回増となりました。何しろ「定年時代」は250万部/月の発行部数を誇るためか、定員の5倍の応募者があり、毎回抽選になっているようです。



なお、募集のうたい文句は、午前に約2時間30分の江戸・東京の船旅を体験し、下船後に江戸時代から続く柳橋の料亭「亀清楼」での昼食会とのことでした。今回もグリーンクラブのメンバーでもある船宿・三浦屋さん所有の粋人丸にて



1回当たり平均46、7名の乗船客と我々ガイド・サポーターの2名、主催者側案内スタッフ1名で毎回ほぼ満員状態の中、船上では、当選された乗船者の方達の期待の大きさもあり、説明の1字1句も聞き逃すまいと熱心に耳を傾けているようで、緊張するガイドでした。

なお、クラブからの参加者は稲垣、早瀬、目黒、平林、柿沼の各メンと稲垣メネットおよび神田川船の会のサポーターの田仲(芝楽師匠)さん、また、「神田川船の会の小冊子」を計138冊販売する事が出来ました。(柿沼記)

2016年11月26日(土)11:00より東京YMCA東陽町センターで57名の参加者が集い和やかにメネットの集いが開催されました。相磯メネット委員長の「清く、楽しく、美しく」の言葉でご挨拶が始まりました。事業報告は、国際では西アフリカ内戦で荒廃したシエラレオネ戦争被災児へのPC教材送付、技術者派遣などの支援、イタリア・シデルノの移民救援など。国内では絵本を送る運動の



継続、東日本震災支援の継続をアピールされました。次期東日本区栗本理事の祝辞、東西日本区交流会への参加アピールがあり、さらに近年のメンバー減少に女性メンバーの増強を期待したいと述べられました。

利根川東日本区理事からは東日本区61クラブ、908名から930名になり、1000名目標も見えてくるとの意気込みが語られ、第20回東日本区大会に関して、川越クラブ松川実行委員長から大会参加のアピールがありました。



記念講演はアナウンサーの竹内陶子さんをお招きして「子育てと仕事・・・」に関してお話をいただきました。アナウンサーのお仕事を続けられながら主婦、子育てのご苦労を軽妙な語り口でお話され、人の一生を若年・中年・老年三代にとらえそれぞれの年代で壁に付きあつた時は初心忘れずをモットーに、一日一日本当に良い日になりますように願っていますとの事。

アツという間の1時間となりました。素敵な時間を頂いたことに心から感謝申し上げます。

グリーン出席者は5名でした。浅見クミ子・塩入淑子 平林正子・布上信子・布上征一郎 (布上信子 記)

第2回東西日本区交流会

- 日程 2017年2月4日(土)~2月5日(日)
- 会場 日本YMCA同盟国際青少年センター・東山荘
- プログラム 講演：中道基夫氏・日本YMCA同盟理事
：山田公平氏・ワイズ国際事業主任
~~2日間、楽しい交流会など満載！~~
- 登録費 宿泊者13000円、宿不要者：8000円(食事付)
- 登録受付期間 11月14日~12月31日(先着400名)
・新幹線三島駅⇄のチャーターバスを用意
(予約制、実費負担)

第33回「村上海賊の娘」和田竜 新潮社 2014年



2004年から始まった「本屋大賞」は、芥川賞、直木賞などの文学賞とは異なり本屋が売ってみたい、読んでほしい本を全国の書店員が投票で決める賞である。第1回は「博士の愛した数式」(新潮社、小川洋子作)が選ばれて2006年映画化された。その後、大賞に選ばれた作品の内、10位以内に入ったものほとんどが、TV、ラジオドラマ化、映画化されている。それだけ大衆に愛される作品が多かったからであろう。2014年度は、和田竜の「村上海賊の娘」が選ばれた。上下2巻、1000ページに及ぶ大作である。さらに今年になって文庫本として再出版された。戦記ものがあふれている昨今、この小説は異色である。

戦国時代、織田信長が天下統一を目論んでいた頃、毛利方に付いた村上海賊と織田方に付いた泉州海賊の海上の戦いの経緯を描いている。我が身第一、我が家第一を是とし、打算と裏切りが当たり前であった武将の生き方に対して、瀬戸内海の雄、村上海賊の首領、武吉の娘であり女武将と謳われていた景が正義と人道に立って戦う姿がこの作品のテーマである。織田信長が、一向宗を弾圧し大阪石山本願寺を攻め立てていたころ、村上水軍が毛利方に付き、織田対抗策の1つとして、本願寺に立てこもる一向宗信徒を支援し兵糧を送るミッションを引き受ける。当初、村上水軍は、毛利軍と共に大阪を攻める予定で出兵するが、織田軍を眼前に上杉の出兵を待つ作戦に洞ヶ峠を決め込む。厳しい織田包囲網に石山本願寺は、兵糧攻めに苦しみ陥落寸前となる。その時に、毛利・村上連合軍の作戦を無視して、景は単独で僅かの兵を率いて織田軍に攻め入り戦いを挑む。いくら強い女武将だとしても、次第に敗色が濃くなる。その時、上杉立たずの判断の下、帰還を始めていた毛利・村上連合軍が、景の無謀なまでの挑戦に心を揺さぶられ支援することを決意する。当初の不利な戦況にも関わらず、毛利・村上連合軍は、多大の犠牲を払って少しずつ戦いを有利に展開する。そして最後に景は、命をかけて敵大将を打ち取る。

女性を先頭に立てて戦った例など日本では稀有の事であろう。女性が兵士として戦闘船に乗りこむ事さえ禁じ手であった時代である。信長公記など歴史資料を精緻に読み込み史実に沿っているが、資料の間隙を著者のあふれる想像力で補っている。これまでの本屋大賞作品に比べるとこの作品は、ストーリーの展開の遅さと過度な戦闘場面の描写に思わず読み続ける意欲が萎える時がある。それでも読み終えると不思議にも主人公、景の生き方に拍手を送りたい気持ちになるのである。

作者、和田竜は、「のぼうの城」(2009年、2位)に次いで2014年度の大賞を獲得した。戦国時代を描かせたら第1人者であろう。たった一人の正義感が、一般大衆(戦士)の心を揺るがせ希望と勇気を与えて敵を倒した女性リーダーが居た史実があることに驚く。ワイズの原点も1920年米国トレドのYMCAのごく少数の人たちが声を上げてスタートした。正義、平和、連帯など正しいと思ったことを信念をもって活動することが、共感と呼び大きな運動になるという事実は今も昔も変わらないと思う。

(西澤 紘一記)

▼ 11月17日、「YMCA/YWCA合同祈祷会」が在日本韓国YMCAを会場に開催された。『誰も置き去りにしない』というテーマのもとに大久保正禎牧師(日本基督教団王子教会)より「ひとりを捜しにいかないか?」と題してメッセージをいただいた。

▼「熊本大地震復興支援マラソンチャリティーコンサート」が、11月11日に最終回を迎えた。このコンサートは、本法人理事の飯靖子氏他有志による実行委員会の呼び掛けにより、様々なジャンルの音楽家たちがコンサートでバトンを繋ぎ、熊本支援の輪を広げようという趣旨でスタート。7月から19回に渡り開催され、延べ800名を超える来場者があった。益金総額1,859,611円は、熊本YMCAを通して被災した方々を支援する活動のために用いられる。

▼ 11月26日、山手センターにて「ソシアスフォーラム」が『共に語ろう東京YMCAの未来を! ~中期計画とブランディングから~』をテーマに山手センターで行われ、約50名が参加した。菅谷淳副総主事より「2016年度~2018年度中期計画」、星野太郎主任主事(日本YMCAブランディングタスクチームメンバー)よりYMCAのブランドコンセプトが紹介され、その後分団協議にて東京YMCAの今後の活動や広報の在り方等が幅広く語り合われた。

▼12月3日、「国際プログラム報告会・クリスマス祝会」が東陽町センターで開催された。職員や会員、にほんご学院の学生やボランティアリーダーなど、幅広い世代の参加があった。礼拝では佐藤茂美氏(会員、午餐会世話人)より『博士の井戸』と題してメッセージをいただき、報告会では今年度実施された国際プログラムの参加者を中心に分団での分かち合いが行われた。ラテンバンド演奏やキャンプソングを楽しむ時間も設けられ、和やかな雰囲気の中で参加者同士の交流がはかられた。

▼東京YMCAの語学教育、キャンプ、障がい者プログラムなど、主にコミュニティ事業のホームページがリニューアルされた。全ページをスマートフォン対応とし、トップページからはワンクリックで希望の活動にアクセスできるなどの工夫がなされている。

▼今後の主な行事日程

- ・東陽町クリスマスオーオープンハウス/12月23日
- ・新春特別午餐会(阿刀田高氏)1月20日(学士会館)
- ・第11回子育て講演会(岡田武史氏)1月28日(しのめこども園)